

医療面接スキルアッププログラムの概要とその評価 —2008年度から2019年度までの12年間のまとめ—

鬼塚 千絵¹⁾ 角野 夢子¹⁾ 喜多 慎太郎²⁾
板家 朗³⁾ 安永 愛¹⁾ 永松 浩¹⁾
木尾 哲朗¹⁾

抄録：九州歯科大学附属病院では、研修歯科医を対象に医療面接の形成的評価および技能向上を目指して、2007年より医療面接スキルアッププログラム（Medical Interview Skill-up Program for Trainee Dentists 以降、MISUP）を研修開始時に実施している。MISUPは、試験形式、自身の振り返り、低評価者対応の個別プログラムから構成される。MISUP試験形式では、研修歯科医1名につき模擬患者（以降、SP）1名と指導歯科医1名が評価を行う。ステーション1（以降、St1）では「初診時医療面接」、ステーション2（以降、St2）では「指導歯科医への報告」、ステーション3（以降、St3）では「患者への説明」の課題で時間制限を設けずに一連の流れで行い、試験終了後に指導歯科医とSPが研修歯科医にフィードバックを行う形式である。本研究の目的は2008年度から2019年度までの12年間にわたりMISUP試験形式に参加した研修歯科医からのアンケート調査をもとに実施内容の検討を行い、その教育的効果を検証することである。アンケート調査では12年間で745名から回答を得た。「ステーションは役立ちましたか？」では、「役立った」と「まあ役立った」の高評価は、St1からSt3のすべてのステーション、すべての年度で90%以上であった。一連のシナリオの使用について、「良かった」と「どちらかという良かった」の高評価は、すべての年度で90%以上であった。MISUPの試験は、研修歯科医にとって有用であることが示唆された。

キーワード：研修歯科医、研修プログラム、医療面接、教育的効果、アンケート調査

緒言

2005年度より、歯科大学・大学歯学部において臨床実習前の学生を対象とした共用試験OSCEが実施されており、医療面接や歯科臨床に関する技術や態度、知識の評価がなされている¹⁾。共用試験OSCEの初診時医療面接課題では、臨床実習前までに学生に求められる医療面接に関する能力の習得の確認であるが、評価の標準化および単純化のために、学生の行動に基づく評価システムを採用している。そのため、患者との相互関係はあまり評価に影響しないとされている²⁾。しかし、臨床で研修歯科医が医療面接を実践するためには、患者の応答やメタメッセージに含まれている患者の理解度をはかることが不可欠であるといえる。

日本総合歯科学会の前身である日本総合歯科協議会による報告³⁾では、アンケート調査に回答したすべての部署において歯科医師臨床研修に関与しており、また、総合歯科が取り扱うべきテーマとして患者中心の歯科医療、医療面接、総合歯科治療計画、口腔診断が

挙げられていた。また、日本総合歯科学会の設立趣旨⁴⁾として「本学会は、わが国の包括的総合歯科医療を発展・普及することを通して、国民の健康増進に寄与することを目的としている。①全人的歯科医療の提供：行動科学の探求、コミュニケーション技法の修得、②地域志向アプローチ：保健・介護等への参画、③包括的歯科医療の探求：臨床推論能力の向上、プライマリケアの実践、口腔健康増進・治療技術の修得、④多職種連携：周術期、有病者・在宅での診療、⑤職業規範の遵守：プロフェッショナルとしての資質向上、などを主として生涯研修の開発・実践・教育の3つに大別して追求する」と掲げられている。このように日本総合歯科学会会員の役割として、歯科医師臨床研修での研修歯科医の教育、その中でも全人的歯科医療の提供のためコミュニケーション技法の習得・医療面接技能の向上、包括的歯科医療の探求のため口腔診断および総合歯科治療計画の立案に携わっていくことが肝要であるといえる。

過去に、研修1年終了時の研修歯科医を対象として

¹⁾九州歯科大学口腔治療学講座総合診療学分野（主任：木尾哲朗教授）

²⁾キタ忍歯科医院

³⁾板家小児歯科医院

⁴⁾Division of Comprehensive Dentistry, Department of Oral Function, Kyushu Dental University (Chief: Prof. Tetsuro Konoo) 2-6-1 Manazuru, Kokurakita-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka 803-8580, Japan.

²⁾Kita Shinobu Dental Office

³⁾Itaya Pediatric Dental Clinic